

## 第3回埼玉県少子化対策協議会 議事録

日時：平成30年9月18日（火）

9時30分～10時00分

場所：埼玉県県民健康センター 大会議室A・B

### 1 開会

### 2 あいさつ（福祉部少子化対策局 小池局長）

- ・ 市町村におかれては、予算編成に向けた議論が本格化していくことと存じているが、本日は午前の会議の後半で、内閣府及び文部科学省の担当官をお招きして幼児教育・保育無償化について御説明いただく。積極的に意見交換をいただきたい。
- ・ まずは、国の少子化対策に係る概算要求について、資料を抜粋した説明と、前回の協議会の後に実施した待機児童対策協議会、子育て支援ワーキンググループでの議論の内容を御報告させていただく。これらの情報を共有していただき、今後の少子化対策の参考にしていただければ幸いである。

### 3 議題等

#### （1）国の概算要求について

資料1について、大熊少子政策課副課長から説明

- ・ 内閣府、厚生労働省の概算要求として「子育て安心プラン」や幼児教育・保育無償化、少子化対策の総合的な推進等として地域少子化対策重点推進交付金などが予算増となっている。

#### （2）第2回待機児童対策協議会（8/28実施）の報告

資料2について、渡邊少子政策課主幹から説明

- ・ 協議会の開催に先立ち、各市町村へ「特定教育・保育等に関する費用算定に用いる公定価格の地域区分について」というテーマでアンケートを実施させていただいた。
- ・ その結果、①地域区分の見直しは単独の市町村単位ではなく広域的に考える必要がある。②保育士確保は単独市町村での取り組みではなく、待機児童対策協議会を通じた広域的な保育士確保とあわせて、地域区分による格差是正を考えていくことができるのではないかと意見に集約した。これに対し、広域的な保育士確保対策として小規模保育事業の連携施設の設定、育児休業中の保育士の復職支援や保育士の就職フェアの合同開催等について議論した。
- ・ 本日の午後は、南部、西部、北部と地域ごとに3つグループを作り議論いただく。ただし、このグループで固定というわけではないし、グループ数も固定ではなく柔軟に対応していきたい。

(3) 子育て支援ワーキンググループ（8/28実施）の報告

資料3について、石川少子政策課主査から説明

- ・ 各市町村が設置している「地域子育て支援拠点の多機能化」と「今後の在り方について」をテーマに議論をいただいた。
- ・ 一時預かり事業については、短時間での預かり等一定のニーズがあるのではないかという意見と、専用のスペースが必要という課題が出された。
- ・ 利用者支援事業を併設することについては、直営の施設では導入しやすいのではないか、直営でない施設については庁内連絡会議や研修等へ参加してもらう等対応が必要ではないかという意見があった。
- ・ ファミリーサポートセンターを併設することに関しては、まず利用会員側としては、拠点を利用している方は利用しやすくなり、他人の家庭での預かりに抵抗を感じる保護者は利用しやすくなるのではという意見があった。また提供会員側としては、利用者に対する課題が起きたときに相談しやすいことや、家庭での預かりに不安のある会員のプレ預かりの場としてよいのではないか、という意見があった。
- ・ 今後は多機能化について意見を深め、さらに小学生までの受け入れに係る異年齢児や多世代との交流についても意見を交換したい。

4 その他情報提供

- ・ こども食堂のほかこどもの居場所について、今年度も調査させていただき、とりまとめたものを記者発表した。

5 閉会